

記事のタイトルをクリックすると、当該記事のホームページに遷移します。 ※ページがない場合は、遷移しません。

ねりま区報



2/21

令和7年
(2025年)

第2071号 毎月1日・11日・21日発行

発行/練馬区 編集/広聴広報課
〒176-8501 豊玉北6-12-1
☎3993-1111(代表) FAX 3993-1194
<https://www.city.nerima.tokyo.jp/>

夕べの音楽の
放送時刻が変わります



3月1日(土)から、午後5時30分に流れます。▶問合せ:青少年係☎5984-4691

2月6日に第一回区議会定例会で前川区長が所信を表明

区民生活をより豊かに



はじめに

友好都市提携30周年を記念して、先週、オーストラリア・イプスウィッチ市のテレサ・ハーディング市長が来訪されました。私が先頭に立って、光が丘の街並みや公園、清掃工場、医療福祉プラザ等の都市施設、大泉町の農園などをご案内しました。都市の利便性と、公園や農地、樹林地など豊かなみどりが両立した、練馬区の魅力を知って頂けたと考えています。また先月、検討に協力してきた「ネリマガーデン」の改修計画がまとめられており、友好の象徴として、永く市民に愛されることを願っています。

歓迎宴で市長からは、「今回の訪問は単なる30周年のお祝いではありません。これからの30年に向けてより強い絆を創るためのものです」とのコメントを頂きました。引き続き、イプスウィッチ市と練馬区の相互理解と友好交流を深めていきます。

私は財政運営の舵を取るにあたっては、根拠の無い楽観論に陥ることなく、常に一步先を見据え、いかなる事態にも耐えうる財政基盤を築くことを心掛けてきました。コロナ禍の難局において、ワクチン接種の練馬区モデルや区独自の様々な支援策が実施できたのも、計画的に基金を積み立ててきたからです。

毎年の予算編成では、区民の命と健康を守る事業の推進を最優先とし、区民生活を支える上で必要な施策を、時期を逸することなく確実に実行する一方で、聖域なく既存事業の見直しを徹底してきました。

この10年を振り返ると、練馬区の福祉医療サービスは飛躍的に充実しました。一般会計の規模は882億円増加しましたが、その約8割、690億円が福祉医療・教育・こども家庭分野です。

保育サービスの充実をはじめ、支援が必要な子どもたちへの対応、地域包括支援センターの体制強化、ひとり親家庭自立応援プロジェクトなどに取り組みました。施設整備面では、病院や介護保険施設、重度障害者グループホームなどに約230億円を充ててきました。区内の病床数は、約1,000床増加し、約2,800床となっています。

こうした施策展開にあわせて、福祉職1.4倍、心理職3.3倍、保健師1.3倍、ケースワーカー1.4倍と、職員体制を増強しました。

基金を610億円から1,160億円へと、550億円増加させるとともに、起債残高の抑制に取り組み、持続可能な財政運営を堅持してきました。財政の弾力性を表す経常収支比率は、86.2%から80.6%へと改善し、適正水準に近づいています。

令和7年度当初予算案及び 令和6年度2月補正予算案

令和7年度当初予算は、一般会計予算額が3,517億円、昨年度比286億円の増となっています。学校の改築、道路、公園の整備など、区民生活を支える社会資本を形成する事業には、基金と起債を可能な限り活用しています。

歳入面では、「ふるさと納税制度」による特別区民税の減収が、来年度は58億円に拡大すると見込んでいます。ふるさと納税は、受益と負担という税制本来の趣旨を逸脱し、地方自治の根幹を破壊するものです。しかも、現在は過剰な返礼品競争に堕しています。区は、返礼品競争に与することなく、寄付の充実に向けた取組を進めています。「医療的ケア児・障害児と家族の応援」、「美術館・図書館の全面リニューアル」など、新たに6件の寄付メニューを創設し、目標額を設定して行うクラウドファンディングも活用していきます。

今後とも、ふるさと納税の廃止に向けて、特別区長会全体として、東京都と力を合わせ、粘り強く取り組んでいきます。

また、今年度5度目となる補正予算では、昨年末に成立した国の補正予算を受け、住まいの防犯対策緊急助成事業やキャッシュレス決済ポイント還元事業の実施に要する経費を計上しています。

子どもたちの笑顔輝くまち

●子育てのかたちを選択できる社会の実現

区独自の幼保一元化施設である「練馬こども園」の創設、「待機児童ゼロ作戦」の展開などにより、これまでに9,200人を超える定員増を実現し、4年連続で待機児童ゼロを達成しました。

保育需要は、0歳児が減少し1・2歳児の増加が見込まれます。このため、定員拡大に向けた私立保育所等への補助制度を新設します。

練馬こども園は、4月から4園が加わり、私立幼稚園38園中30園となります。引き続き、開設準備経費補助や職員への家賃手当補助を実施し、練馬こども園を拡大します。

障害児保育を充実するため、区立保育園の障害児受入の上限枠を撤廃するとともに、認証保育所への受入に対する補助や、小規模保育施設などへの区独自の人件費補助等により、障害児の受入を更に進めます。

本年秋に、「地域子ども家庭支援センター関」の分室を開設します。これに伴い、子育てのひろばの開室日、乳幼児一時預かりの実施日をそれぞれ週7日に拡充します。

2・3面へ続く

区報は、朝日・産経・東京・日経・毎日・読売の各新聞に折り込んでいます。駅・金融機関・郵便局・公衆浴場・薬局・ファミリーマート・セブン・イレブン・西友・ライフ・サミット・ヤマダデンキ・コジマ・ルネサンスや区立施設にも置いています。

【掲載内容について】 講座などは、原則として区内在住・在勤(在学)の方が対象で、発行日(施設が休館の場合はその翌日)以降に申し込みます。 ※申し込みは1人1通です。 ※費用などの記載がないものは無料です。 ※区役所へ郵送する場合の宛先は、郵便番号(〒176-8501)と部署名のみで届きます。